

東日本大震災から10年

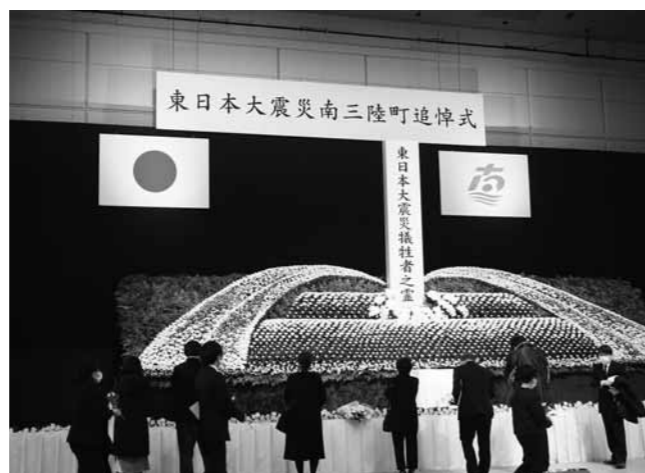


東日本大震災から10年を迎えた3月11日。

東日本大震災南三陸町追悼式は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で執り行い、ご遺族など約1,100人が参列されました。

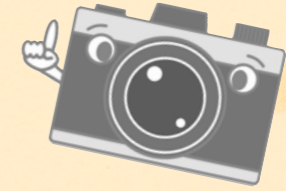
10年という節目を迎えても、決して癒えることのない悲しみ。

震災により犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、復興への誓いを新たにすため、この日は、鎮魂の深い祈りに包まれました。



広報担当からのお知らせ

この広報4月号は、3月22日現在の情報です。新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、この号でお知らせしているイベントなどが中止や延期となる可能性があります。その際は、町HP、防災行政無線やフェイスブックなどでお知らせしますので、ご了承くださいますようお願いいたします。



「宇宙桜」に願いを込めて

2月22日(月)戸倉地区追悼の場にて、東北復興宇宙ミッション「きぼうの桜植樹式」が行われました。この取り組みは、東日本大震災の復興・伝承事業として、全国の名だたる桜の直系子孫を被災地の津波到達点などに植え、震災の記憶を風化させない避難の目印や復興のシンボルとして、長く将来にわたって残していこうという目的で、被災沿岸部を中心に実施されているものです。



今回植樹されたのは、高知県仁淀川町の「ひょうたん桜」から種を採取し、宇宙を旅したのちに発芽した桜の苗木で、通称「宇宙桜」と呼ばれています。

「ありがとう」を声援にのせて



2月27日、28日(土・日)南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」にて、Bリーグ公式戦、「仙台89ERS対香川ファイブアローズ」戦が開催されました。

仙台89ERSは、復興支援の一環として、平成25年から本町で公式戦を開催し、町の復興に活力を与えてくれました。

震災10年を迎えるにあたり、この試合が本町で行われる最後の試合となり、試合を観戦していた、約1,400人の観客が、仙台89ERSの選手たちへ感謝の気持ちを込めて、熱い声援を送っていました。

私が春休み防災無線放送を担当しました



町では、防災行政無線を活用して、春休みの期間中、子どもたちが安全に帰宅できるよう帰宅促進放送をしています。

今回は、入谷小学校6年生の菅原佑太さんが担当しました。

菅原さんは、放送委員会に所属していて、校内放送を担当しているそうです。

「最初は緊張したけど、だんだん慣れて落ち着いて話すことができました。スピードや話すタイミングなどに気をつけました。やってよかったです。」と感想を話してくれました。